

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 6 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25381246

研究課題名(和文) 歴史認識を現代的視点から自律的に発展させる小中歴史カリキュラム単元の開発研究

研究課題名(英文) The Development of Primary and Middle School History Curriculums That Encourage Students to Construct Historical Understanding on Their Own from a Contemporary View

研究代表者

寺尾 健夫 (terao, takeo)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成)・教授

研究者番号：70217412

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では歴史教育で従来から批判されてきた小・中学校での通史学習の繰り返しの問題点の解決方法を解明した。その方法は小・中学校を一貫して現代社会の理解に結びつけて子どもの歴史認識を自律的、段階的に発展させる歴史カリキュラムの単元開発である。研究ではこの問題解決の先進国である米国の歴史学習原理を解明し、その原理を応用して日本の歴史学習を改善できる歴史カリキュラム単元を開発した。単元は大きく「科学的論理に重点をおいて出来事を解釈し意味づけることで子どもが自律的に歴史像を作っていく「研究的歴史構築学習」と「批判的論理に重点をおいて出来事を解釈し意味づける「社会構築主義歴史学習」の2タイプに分けられる。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to show several solutions to history education in primary and middle schools. So far long standing problems have been seen in history lessons; in primary schools to junior high schools history lessons begin with the ancient through modern times. In order to solve the issue like this, several history lesson units were developed so that students can create their history understanding on their own from a contemporary viewpoint. This was achieved through analyzing the principles and lessons that have been implemented in history lessons in the U.S. and through applying them to history lessons in Japan. The units can be divided into two categories, 1) history learning based on cognitive constructivism; interpreting historical events and create understanding by utilizing scientific way of analyzing, 2) history learning based on social constructivism; interpreting historical events and create understanding by using the way of critical thinking.

研究分野：教科教育学

キーワード：歴史教育 歴史学習 構築主義 構成主義 社会構築主義 カリキュラム 小中一貫 社会問題

1. 研究開始当初の背景

(1)これまで小学校と中学校の一貫性を明確にして歴史認識を発展させる歴史カリキュラムの開発研究を行ってきた。研究の手がかりとして、これまで欧米で発展してきた構築主義に基づく歴史学習論に着目し、文献や現地調査を通して構築主義に基づく歴史学習の原理を解明してきていた。

(2)研究開始当時においても構築主義に基づく歴史学習論の発展や歴史教育変革に対する社会的要請の高まりはめざましく、認知構築主義や社会構築主義の名称の基に社会関係についての現代的な概念が再定義され、社会の見方・考え方として歴史教育の内容に取り入れるべきであるとの要請が高まり、また学習方法論としても協働的な学習が求められるようになっていた。

(3)これまでに開発した構築主義に基づく歴史カリキュラムを日本の教育現場に普及させるには、教育実践の場にいる教師が容易に利用できるような具体的な単元を開発して公開していくことが効果を上げる大きな課題であった。

2. 研究の目的

本研究では、歴史教育において従来から批判されてきた小学校と中学校における通史の繰り返し学習の問題の解決に焦点を当て、通史の繰り返し学習では無く、小学校と中学校を一貫して、現代社会の理解と結びつけて子どもに歴史認識を自律的、段階的に発展させる歴史カリキュラムの単元開発を行うことを目的とした。

具体的には、構築主義に基づく歴史学習としての単元開発を行う。開発する単元は、科学の論理に重点を置いて出来事を解釈し、意味づけることで子どもが自分自身の歴史像を作っていく研究的歴史構築学習を基礎とするもの、さらにその発展として批判の論理に重点を置いて出来事を解釈し、意味づけることで子どもが自分自身の歴史像を作っていく社会的歴史構築学習を基礎とするものの2つのタイプである。

また取り上げる学習内容は現代社会の見方・考え方の習得につながるもので、民主主義、公共政策、外交・紛争、憲法、ジェンダー、人種・民族、社会集団の心理などで、学習問題の種類としては歴史の中の問題、歴史を通じた問題、歴史の認知の問題を取り上げて単元開発を行う。単元の形態としては、現行の歴史カリキュラムの中に投げ入れることができるものとする。

3. 研究の方法

本研究では、現代的視点から子どもの歴史認識を発展させる小中学校一貫歴史カリキュ

ラムの単元開発を行うために、(1)理論的研究と(2)実験・実証的研究の両面から研究を行った。

(1)理論的研究では、これまで開発してきた歴史カリキュラムの基板にある構築主義の理論に焦点を当て、近年新しく再定義されている社会関係についての概念を現代的特徴について明らかにする。また米国やカナダの歴史教育研究者によって先駆的に提案されている構築主義歴史学習の理論を分析して内容構成原理や学習方法原理を新たに整理し、小中学校を一貫して現代的視点から自律的に歴史認識を発展させるカリキュラムを一層整備・発展したものにす。さらに、現代社会の人間関係に関わる新たな概念を確定し、それらを社会の見方・考え方として学習させる具体的な単元開発を行う。

(2)実験・実証的研究では、開発した歴史カリキュラムの単元を、附属学校および公立小中学校の教員の協力を得て実施し、子どもの学習の実態と照らし合わせて歴史カリキュラム及び開発単元の有効性を検討・確認する。

4. 研究成果

(1)理論的研究については、米国の構築主義に基づく歴史学習論を分析してその基本となる学習原理を明らかにした。構築主義の歴史学習論は、認知構築主義に基づく学習論と社会構築主義に基づく学習論の2つのタイプがあることが以前よりさらに明確になった。また認知構築主義に基づく歴史学習論は、その特徴から、研究的歴史構築主義歴史学習と呼ぶことができ、社会構築主義に基づく歴史学習論は社会的構築主義歴史学習と呼べるものであることがわかった。

(2)時代の政治思想や倫理性に焦点を当てた「時代像」の解釈学習として米国のアーマスト・プロジェクトの単元「ヒロシマ - 戦争の科学、政治学、倫理学からの研究 -」を分析した。その結果、単元の内容構成原理として、ア.「時代像理解モデル」を用いた時代像・社会問題の理解、イ.意思決定の一般基準を理解させる構成、ウ.歴史的人物の動機・判断基準を理解させる構成、学習方法原理として(a)現在の視点からの歴史的事実の解釈、(b)多様な文書の活用、(c)物語の構成を通じた時代像の理解をさせるという方法をとっていることを明らかにした。

(3)個人の思想に焦点を当てた「人物の行為」の「批判的」解釈学習として、米国のDBQプロジェクトの世界史単元「ガンジー、キング、マンデラ - 何が非暴力主義の事業を成し遂げさせたのか」を取り上げて分析した。その結果、内容構成原理としてア.「行為の批判的モデル」による出来事理解、イ.自由・

平等を求める運動の成功要因の発展的理解、ウ.行為と出来事の動的な理解、学習方法原理として(a)人物と出来事の関係の理解モデルによる出来事理解、(b)主張の構築としての歴史理解、(c)主張(正当化)の方法の発展過程としての時代像理解、(d)現在の視点による人物の行為と出来事の関係の理解という方法をとっていること、を明らかにした。

(4)「社会問題」に焦点を当てた「批判的」解釈学習として、米国のDBQ歴史プロジェクトの米国史単元「ERA(男女)平等憲法修正条項」はなぜ否決されたのか」を取り上げた。その結果、内容構成原理としてア.「社会問題の批判的解釈モデル」による歴史理解、イ.主体と論拠の社会的拡大による社会問題の理解、ウ.未解決の現代的課題、学習方法原理として(a)「社会問題の批判的解釈モデル」による社会問題理解、(b)2段階の議論の構造を用いた社会問題理解、(c)要因の批判的解釈の発展としての社会問題理解、(d)現在の視点による社会問題の理解という方法をとっていること、を明らかにした。

(5)史料と科学の方法を媒介とした「出来事」の解釈学習として、米国のホルト・データバンク・システムの単元「誰がアメリカを発見したのか」を取り上げた。その結果、内容構成原理としてア.「出来事の解モデル」を用いた理解、イ.社会科学の方法の習得、ウ.社会科学の概念の習得、そして学習方法原理として(a)社会科学の方法を用いた主権者概念の獲得、(b)社会科学の方法を用いた出来事及び出来事と時代像の関係の理解、(c)社会科学の方法を用いた社会科学の概念の習得という方法をとっていること、を明らかにした。

(6)「社会集団の行動」の「批判的」解釈に基づく歴史人物学習の理論として米国のDBQプロジェクトの単元「何がセイラムの魔女裁判を異常なものにしたのか」を取り上げた。その結果、内容構成原理としてア.「社会集団の行動の批判的理解モデル」による出来事理解、イ.社会心理学的視点による出来事理解、学習方法原理として(a)「社会集団の行動と出来事の関係の理解モデル」による出来事理解、(b)主張の構築としての歴史理解、(c)小論文の執筆を通じた時代像理解の方法をとっていること、を明らかにした。

(7)以上の(2)～(6)の理論的研究を基にして日本の小中学校で構築主義に基づく歴史カリキュラムの単元として利用できるものに再構成して、単元「ヒロシマ」、単元「非暴力主義」、単元「米国の男女平等憲法修正条項はなぜ否決されたのか」、単元「誰がアメリカ大陸を発見したのか」、単元「セイラムの魔女裁判」の合計5個のニューバージョン

の歴史学習単元を開発した。

5. 主な発表論文等(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7件)

寺尾健夫、「社会集団の行動の批判的解釈に基づく歴史人物学習の論理」、『福井大学教育・人文社会系部門紀要』、第1号、2017、227-264。

寺尾健夫、「小学校における史料と科学の方法を媒介とした出来事の解釈学習の論理」、『福井大学初等教育研究』、第2号、2017、9-20。

寺尾健夫、「社会問題に焦点を当てた歴史の批判的解釈学習の論理 DBQ プロジェクト米国史単元『男女平等憲法修正条項(ERA)はなぜ否決されたのか』の場合 - 」、『福井大学教育地域科学部紀要』、第6号、2016、217-258。

寺尾健夫、「人物の行為の批判的解釈に基づく歴史学習の論理 - DVQ プロジェクト単元『非暴力主義:ガンジー、キング、マンデラ』の場合 - 」、『福井大学教育地域科学部紀要』、第5号、2015、214-247。

寺尾健夫、「時代の政治思想や倫理的判断に焦点を当てた歴史解釈学習の原理 - 米国アマーフト・プロジェクト単元『ヒロシマ』を手がかりとして - 」、『福井大学教育実践研究』、第40号、2015、25-36。

寺尾健夫、「現代アメリカにおける構築主義歴史学習の原理と展開 - 歴史像の主体的構築 - 」、『福井大学教育地域科学部紀要』、第4号、2014、186-209。

寺尾健夫、「主体的自律的に考える子どもを育てる NIE カリキュラム開発の視点と小学校における開発事例」、『福井大学教育実践研究』、第38号、2013、19-26。

[学会発表](計 0件)

[図書](計 0件)

[産業財産権](計 0件)

6. 研究組織

(1)研究代表者

寺尾健夫(TERA0, takeo)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門・教授

研究者番号： 70217412

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
なし